

おおま

No. 91
岬の光

平成28年11月1日発行

議会だより



高浜原発(福井県)視察
H28.7.27(水)

9月定例議会 主な内容

○平成27年度歳入歳出諸決算

P 2～3

○平成28年第3回定例会

P 4～5

○下広・27年度決算／28年第2回臨時会／原特委報告

P 6～8

○3議員が一般質問

P 9～11

○視察・編集後記

P 12

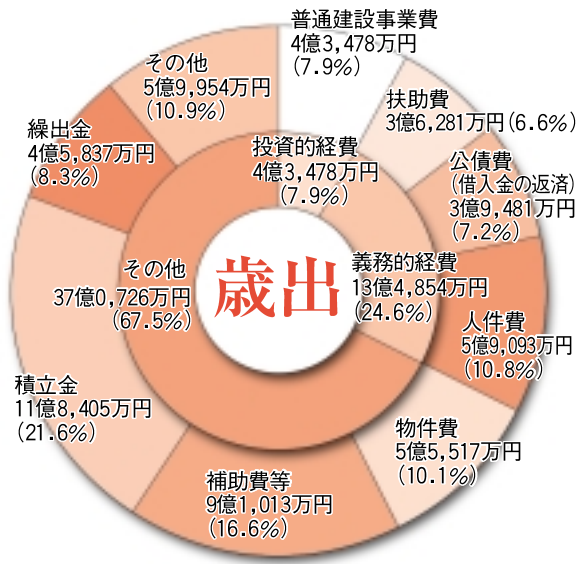
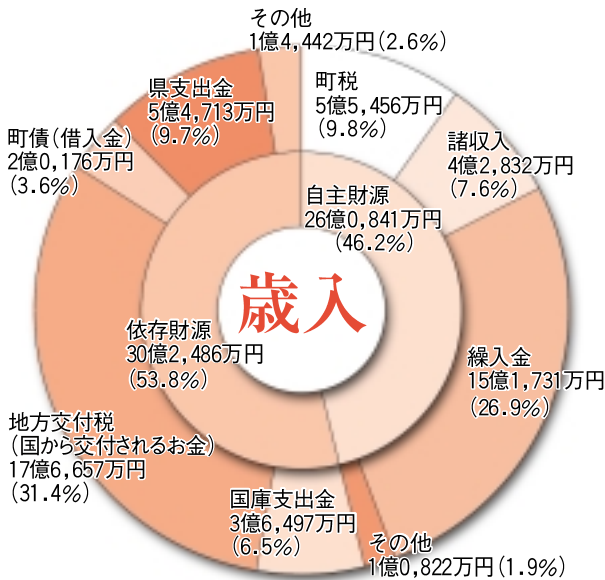
町民一人あたりの借金 実質7万2千円



歳入 56億3,326万円

歳出(性質別) 54億9,058万円

平成27年度
歳入・歳出諸決算
一般会計の内訳



借金(町債)・貯金(基金)の状況

【一般会計】

	総額	町民一人当たり	町民一人当たり 対前年(増減)
町の借金(A)	46億8,130万6千円	83万4千円	4千円
借金に対する国の援助(B)	42億7,695万3千円	特定の借金に対しては国から交付税で補てんされます	
実質の借金(A)-(B)	4億0,435万3千円	7万円	2千円
基金(貯金)	35億5,291万9千円	63万3千円	▲1万7千円

※平成27年度決算の状況(人口:5,613人で計算)

各会計別の予算計上内訳

(単位:千円)

	当初予算	4月臨時	6月補正	9月補正	12月補正	3月補正	3月臨時	専決処分	繰越額	合計
一般会計	4,098,779	48,280	8,573	1,253,905	▲1,374	34,435		190,996		5,633,594
国民健康保険特別会計	1,123,555			74,804		▲41,838			0	1,156,521
後期高齢者医療特別会計	47,193					▲2,152			0	45,041
介護保険特別会計	532,802	4,536			20,064	2,950				560,352
下水道事業特別会計	266,432		▲1,472	20		▲7,571			0	257,409

第3回 9月定例会

歳入・歳出諸決算審査特別委員会 平成27年度 歳入・歳出諸決算



一般会計

収入済額56億3326万円、支出済額54億9千57万円で、歳入歳出差引残額1億4268万円。規定により基金繰入額1億1千万円とした。

国民健康保険特別会計

収入済額11億6071万円、支出済額10億1150万円で、歳入歳出差引残額1億4921万円。規定により基金繰入額1億4721万円とした。

後期高齢者医療特別会計

収入済額4424万円、支出済額4374万円で、歳入歳出差引残額49万円。

介護保険特別会計

収入済額5億3484万円、支出済額5億840万円で、歳入歳出差引残額2644万円。基金繰入額は同額の2644万円とした。

下水道事業特別会計

収入済額、支出済額は同額の2億5352万円。

水道事業会計

収益的収入1億5074万円、収益的支出1億5597万円。資本的収入1075万円、支出7618万円で、収入額が支出額に不足する額6542万円は当年度分消費税資本的収支調整額104万円、当年度分損益勘定留保資金6055万円、繰越利益剰余金382万円で補填した。

平成27年度 健全化判断比率

	平成27年度	早期健全化基準
実質赤字比率	△ 5.8%	15.0%
連結実質赤字比率	△ 17.0%	20.0%
実質公債費比率	14.5%	25.0%
将来負担比率	△ 19.4%	350.0%

※△表示は黒字を表す

平成27年度 資金不足比率

	資金不足比率	経営健全化基準比率
大間町水道事業会計	0.0%	20.0%
大間町下水道事業特別会計	0.0%	20.0%

監査委員の意見書

一般会計では繰越財源777万円、実質収支は1億3千万円の赤字となり、特別会計でも実質収支1億7千万円の赤字となっている。財政の健全化比率は良好であるものの財政力指数は0.249と低く、経常収支比率は82.5%と高く財政構造は硬直化している。収入については、収入未済額の主な理由は、1次産業の不振、景気の低迷が続く、並びに納税意識の低下が主なる要因と考えられる。財政環境が厳しい中、公正、公平な財源の確保の観点から収入未済額の案件の実態を把握し、引き続きその解消と新たな発生防止を図る必要がある。

町税収納対策として市町村税滞納整理機構へ徴収依頼し収納率向上を図っているものの、国民健康保険特別会計では繰入額が毎年増加し、町財政を圧迫していることから、抜本的改善が必要である。歳出については、決算収支は赤字となっているが、前年度に引き続き弾力性に欠け厳しい状況下にある。不用額の多額な所が見受けられ改善すべきである。予算の執行に当たっては、財政健全化への取組みを着実に進める一方で、職員一人一人がコスト意識を更に高め、厳正かつ的確な財務の執行に努めるとともに、透明性を確保し、町民に対し十分な説明責任を果たすよう留意されたい。

第3回 9月定例会

平成28年第3回定例会を9月9日開会し、9月15日閉会。
本会議に提案された報告2件、認定1件、議案6件、同意3件はすべて原案のとおり認定、可決、同意しました。

平成28年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ2億8066万円を追加し、予算総額42億3683万円とした。

歳入の主なるもの

- 普通交付税2億4600万円。
- 臨時福祉給付金事業費及び事務費補助金併せて753万円。
- 繰越金で前年度剰余金1490万円。

歳出の主なるもの

- 財政調整基金積立金7000万円。
- 地域福祉基金積立金1億5000万円。
- 障害者自立支援医療給付費457万円。
- 臨時福祉給付金事業費用758万円。

○クリーンセンターのトラックスケール（車輛計量機）の入替412万円。

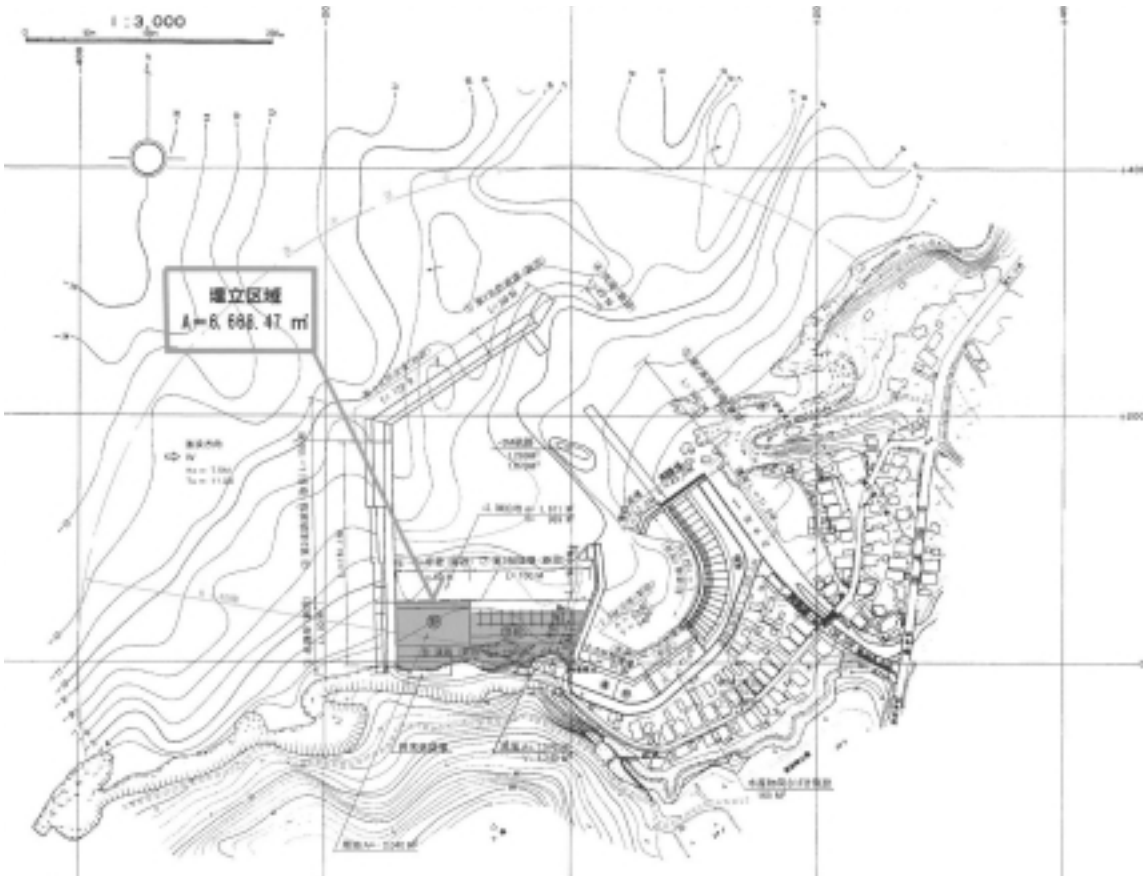


- 中山間整備事業で用地購入費1939万円を減額し、補償金2093万円を追加。
- 海峡保養センターの舞台幕購入費536万円。
- 予備費で財源調整し1748万円。

国民健康保険特別会計

- 歳入歳出それぞれ3961万円を追加し、予算総額11億3354万円とした。

材木漁港埋立地 6,668.47㎡



大間町大字奥戸字材木村に偏入

第3回 9月定例会

町道路線の一部廃止



中山間地域総合整備事業 農道整備事業

クリーンセンター 車輛購入



○契約の方法
指名競争入札

○契約の金額（2輛）
18,635,788円

○契約の相手
むつ市大曲3丁目41
いすゞ自動車東北(株)
青森支社むつ(営)
所長 山下聡

教育長の任命 賛成8 反対1



佐藤 桂一 氏

大間字奥戸道19番地
昭和28年4月15日生

教育委員の任命

賛成8 反対1



宮野 成厚 氏

大間字冷水54番地20
昭和31年7月26日生

※在任中の委員

佐藤恵美子氏
高松 大助氏
小向 英徳氏

人権擁護委員 候補者の推薦 賛成9 反対0



古川 一男 氏

大間字冷水3番地3
昭和23年8月21日生

賛成8 反対1



佐々木 眞萌 氏

奥戸字奥戸93番地
昭和26年6月25日生

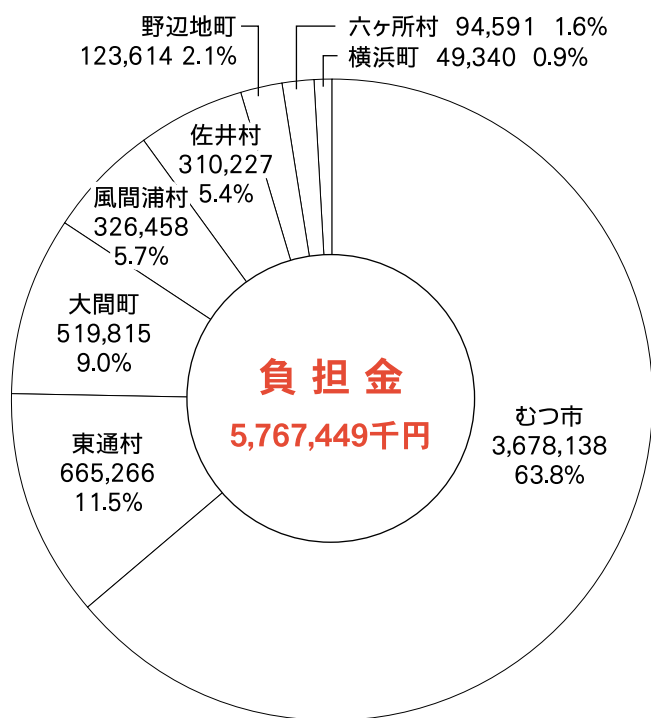
※在任中の委員

目時 浩美氏
大場 弘子氏

下北地域広域行政事務組合 平成27年度 一般会計歳入・歳出決算



歳入総額62億6790万円、歳出総額62億3787万円
 万円で実質収支では3002万円の剰余金を生じた決算となり、財政調整基金に2628万円、非常備消防費剰余金374万円は繰越。



(単位：千円)

	議会費	総務費	文化会館費	民生費	衛生費	消防費	公債費	合計	構成比 (%)
むつ市	1,178	57,461	101,621	58,983	1,313,965	1,486,718	658,212	3,678,138	63.8
大間町	235	10,657		12,699	164,436	261,390	70,398	519,815	9.0
東通村	235	11,423		15,692	167,927	396,581	73,408	665,266	11.5
風間浦村	235	7,443		6,674	81,714	190,302	40,090	326,458	5.7
佐井村	235	7,400		6,643	81,334	171,244	43,371	310,227	5.4
野辺地町	118	5,814			81,053		36,629	123,614	2.1
横浜町	118	2,869			31,156		15,197	49,340	0.9
六ヶ所村	118	4,800			61,512		28,161	94,591	1.6
合計	2,472	107,867	101,621	100,691	1,983,097	2,506,235	965,466	5,767,449	100.0

市町村負担金明細

※ただし、民生費には、児童福祉施設に係る利用者負担金1,423千円を含まない。

大間町役場庁舎建設事業 決定

〔平成30年8月完成〕

第2回 臨時会

〔9月20日〕

一般会計
補正予算

大間町役場庁舎建設事業に係る債務負担行為の期間及び限度額を設定するための議案が提出され全会一致で可決。

役場庁舎の建設は平成28年10月から平成30年8月の完成にむけ大きく動き出すことになった。

大間町公共施設配置計画策定・建設特別委員会

8月29日開催

○建設地

大間町大字大間字奥戸下道20-4ほか

○事業費

12億5000万円
〔税抜きを上限〕

○事業形態

リース契約により15年間〔総額15億6000万円〔税込み〕を上限〕

○構造

鉄骨造

○面積

3000㎡程度

○履行期限

平成30年8月

○募集方法

公募型プロポーザル方式

現状

現庁舎は昭和5年6月大奥村役場として現在地に新築され、その後時代の環境変化や社会変化に対応して幾度の増改築を行い現在に至っている。

必要性

老朽化が進み、維持管理の限界に帰しており、さらには耐震診断はしていないものの、耐震性の不足はあきらかであり大規模災害時での防災拠点として、その役割に不安を抱えている。

課題

最大の課題は財源確保であり、過去に策定した建設計画の全面的見直し、事業費の抑制、建設方法の見直し、防災無線の設置、建設スケジュールの考慮。

9月15日開催

本年10月公募を開始し12月プロポーザル実施、29年1月仮契約、平成30年8月完成検査の工程が説明されたが、一部説明不足を指摘され、再度特別委員会を開催することで閉会。

○工事費+諸経費+金利
14億4600万円

○工事費+諸経費+金利+消費税
15億5600万円

○譲渡特約付賃貸借契約書の提示

○財源については

厳しい財政状況であることから、債務負担行為〔リース方式〕を活用し、初年度投資を抑え歳出の平準化を図る。

2回の特別委員会開催での説明を受け、庁舎建設に係る質問はほぼ終了し、閉会。

○リース料率は0.5% 15年間

○概算事業費を提示
工事費12億4800万円

○工事費+諸経費で13億3400万円

報告 大間原子力発電所対策特別委員会

平成28年9月30日

経済産業省へ要望書

原発工事が2年間延期になったことを受け、経済産業省に経済産業大臣政務官 中川

俊直氏を訪れ、核燃料サイクルの堅持と補助制度の制定を強く要望した。

電源開発(株)へ要望書

運転開始時期を2年延期

平成28年9月9日原発特別委員会で報告があった、2年間の延期報告について、電源開発(株)本社をおとずれ、渡部社長、永島副社長、江藤副社長、浦島、南の園両常務ほか、幹部社員との懇談がおこなわれた。

- ※議会報告の前に新聞に報道されたこと。
- ※経済支援対策
- ※約束されていることの確実な履行
- ※商工事業者に対する前倒しの発注
- ※漁業者に対する説明会の実施
- ※国直轄道路要請に対する支援



などに対する答弁を求め、また社長自らできる限りの支援をする旨の回答をもらい、1時

間以上に及ぶ時間の有意義な懇談会を終了した。
(記)宮野

一般質問



岩 泉 盛 利 議員

産業振興と若者の雇用対策について

① 一次産業の昆布、海藻類の豊不漁対策に、国、県事業の活用と、魚場環境の整備についてお聞きしたい。

町長答弁

地球温暖化に伴う海水温の上昇で、主力水産物の昆布、海藻類等の水揚げ変動が大きく、安定した漁業経営が出来ない状況にあります。国の補助事業で雑草駆除、昆布の種系投入と増殖、ウニの移植事業。

町補助でアワビ、ナ

マコの種苗放流事業等を実施しています。

再質問

漁業従事者も高齢化が進み平成12年から10年間で240名減少しているという、昆布漁で1年間生活できた時代、先人たちは投石事業や、岩礁爆破等で魚場づくりをして来た。10年先を見据え、海・山の環境整備に取り組み、水産物の安定生産を考えては。

町長答弁

岩礁爆破は、昔は非

常に効果的であったが現在は出来ない。海水温の上昇という自然現象に人的な改善は難しい。昆布に代わるものとして、大量に繁茂しているツルアラメに付加価値をつける調査、研究を両漁協と進め、方向性を見出したいと考えております。

水産庁も北通り地域の浜の活力再生プラン事業を策定しました。各単協も広域・効果的な活用に向け努力しているところですが。

町長答弁

② 海底の魚場づくりにコンクリートブロックや、FRP廃船を魚礁として沈め、魚場づくりを進めては。

町長答弁

水産庁と漁港魚場漁村総合研究所が、平成26年3月に策定したFRP沈船魚礁化ガイドラインでは、魚礁化できるのは船体部分のみで、大半は廃棄物扱いとある。ですが、廃船の処理の対策には非常に頭を悩ませているところですので、今後は

費用対効果等を比較し、漁協と協議を進めたい。

再質問

魚礁ですが、廃船だけでなく竜宮礁という設置事業がある。アマモ(ゴモ)を効果的に造成するドーム型のコンクリート魚礁で、軽量(400kg)で丸型のため、刺し網等に影響を与えないという。ドーム型なので中に広い空間が有り、ナマコ、アワビ、ウニなどの増殖、カレイ、アイナメ等の保護に最適で、尚且つ、町の事業費負担がない。是非進めるべきと考えるが。

③ ブランド力を高めた奥戸いもつこの生産拡大に取り組んでいるが、生産者の高齢化、サルの被害等で生産者が減少していると聞く。生産を続けていくために行政が今以上に力を入れるべきと考えるが。

町長答弁

青森県の建設業界の方々が地域産業の活性化のため、研究、製作をして来たと過去に聞いたことがあります。藻場の造成が海を再生すると聞く。漁協と協議しながらより良い海の環境を作っていく努力をしていきたい。

農畜産業振興策について

あの規模の施設では研究施設等に対応せざるを得ないが、環境整備には早急に検討し、対応したい。

再質問

畜産協同組合に委託している黒岩・焼畑地区・二つ石等、広大な土地が放置され、草地の機能が失われる。適切な管理、運営が必要では。又、大間牛(陸マガロ)ですが町外にも提供できるような対策は。

町長答弁

茅栽培は連作がきかないため、回せる仕組みを考えて行かなければならないし、茅で生計を立てるのは非常に難しいが、生産者の組織の中で検討を重ねて行きたい。

バラハウスはご指摘の通り、現状では環境には好ましくありません。

町長答弁

牧草地の活用、畜産の在り方等、協議をしているので、ご理解を戴きたい。陸マガロですが、現在、飼育頭数等の調整をしながら、まず、地元で安定供給する仕組みを作り、その後、町外への販売等に向けて体制を作っていくと考えております。

一般質問

大間字大間10番地周辺の水害対策は



加藤 正喜 議員

防災対策を問う

災害の少ない大間地区で、唯一水害の危険を伴う場所が大間町字大間10番地周辺に存在する。

大間川の堤防を嵩上げした影響で、堤防より低い地域が発生、側溝の水が排水しづらくなり今まで何度か水害が発生している。早期の対策、解決をお願いしたい。

町長答弁

10番地周辺は豪雨の時に水が側溝から溢れ、道路を走り、床下浸水の発生が何度かあ

りました。対策として状況によって土嚢の配布や、避難指示情報を出すこととしております。

抜本的な解決策として、側溝の整備を考慮しておりますが、用地問題等非常に厳しい状況にあります。

今後は地権者・地域の皆様の理解を戴きながら、有効な災害対策を講ずるよう努力してまいります。

再質問

中学校の高台から流れてきた水が両方の側溝を伝い、町営住宅の十字路で一部が左右に分散され、その後は分散される事無く下町地域を含め、全部の水が大間牛乳さんのところに集まる。

道路を整備するなら

ば、水を分散させなければと考えるが。

町長答弁

側溝に水が集中して、大間川に落ちるため、豪雨の時は、はききれない状況になる。解消のためには側溝の容量を多くするのと、分けることが必要だろうと思う。

今後、調査しながら改善できるところは改善する。

再質問

この地域の方々は豪雨のたびに心配しなければならぬ。

土嚢を配布するのもいいが、される方とすれば気持ちが悪くなる。根本的な解決にはならない。下町の側溝の水を役場の向かいの橋のところ

とか、側溝を改善するのならば地権者は存在しない。

この地域の住民の方々はいつになったら解決してくれるのだらうと、首を長くして待っている。

町長答弁

再三申し上げます

ように、側溝の部分については側溝の容量をどう改善していけるかを踏まえながら、災害を未然に防ぐ対策として、より効果的に行うための調査等を進め、地域の皆様の要望にこたえていきたいと思っております。



一般質問



野崎 信行 議員

① 「模型形プロポーザル」入札について

立派なものを作るのではなくベニヤ板でもいいと思います。15億円も建築費がかかるので。

町長答弁

役場庁舎建設に関しての質問だと思いますが、あえて模型を提出させると言うことに拘る理由はないのかなというふうに思っております。

② 「農業振興地域部分解除」について

50年間もしていない。権限は、県ではなく、農業委員会でもなく、市町村にあるそうです。

町長答弁

農地の用途変更に関しては、法に則り、今までも用途変更があるたびに行ってきたと思います。今後も法令を遵守し対応してまいりたいと思います。

③ 「フェリー埠頭駐車場」舗装について

車置き場が泥んこなので、状況であり、道路も舗装でない。

町長答弁

県が整備することで進められています。早期にできるように今後も詰めていきたいと思っております。

④ 「大型風力の土地の賃貸料見直し」について

今、小型風力発電1本につき、1年で24万円、原発は1本3万円、平均3万円である。町は見直す考えがあるか。資料の提出を。

町長答弁

6月定例会でも説明したとおり、町の貸付料は、普通財産貸付条例により、風力発電1基本あたり、44万2千円であり、これをさらに見直すという考えはございません。資料の提出ということについては、議員お持ちの町の例規集に記載のとおり、条例に従って貸し付けしているということでございます。

⑤ 「大間海岸離岸堤整備」について

大間崎レストハウスの下の斜路に東側から波が入るので、離岸堤を設置すべきだと思います。

町長答弁

県単事業として実施するよう県に対しては要望しているところでありあります。

⑥ 「奥戸海岸に昆布拾い階段設置」について

護岸工事のされた場所、海岸に降りれないので階段を作るべきだと思います。県では町が良ければどうぞと言っている。また、町が保険をかけて作れないのか。

町長答弁

基本的に施設管理者である青森県からの回答は、目的がそぐわないことなのでできませんとのことです。野崎議員に県は町がやるならOKですよと話されたということについては、いささか意を呈したいと思います。

そういう話があったということであれば再度、県と協議させていただきますが、県ができないものを町でやれとか、保険をかけて町が作れとかですが、保険に関しては可能かどうか調査させていただきます。

⑦ 「弘前大学サテライト誘致」について

大間警察署跡地に誘致したらどうか。

町長答弁

町が受けるという考

⑧ 「からすの間道路整備」について

側溝、舗装整備がされていない、すべきである。

町長答弁

どういう位置づけで整備されていくかというようなことを検討していきたいと思っております。

⑨ 「かもしが電気柵の誘致」について

かもしかの食害被害の調査をしないと、予算が付かないので、調査すべきである。

町長答弁

鳥獣被害全般の調査を行っており、電気柵の導入も順次行っております。

⑩ 「総合災害時の道路機能低下避難時」について

大間は、避難時間ほどのくらいかかるのか。予算は国が出す。整備すべきである。

町長答弁

総合災害時の避難時間は津波を想定して津波避難時間は、大間崎以西日本海側では12分、太平洋沿岸では21分に設定し、これに基づき、防災計画を策定し防災訓練等に活用し

ています。原子力につきましては、今後、原子力防災を策定することになります。

⑪ 「ニホンジカ監視カメラ有効利用」について

有効利用観光に活用すべきである。

町長答弁

観光にどうつなげていくかという部分については、違う観点で考えていければというふうに思います。

⑫ 中山間地域総合整備事業について

奥戸・黒岩・新釜・佐井まで中山間地域総合整備でやったらどうか。

町長答弁

中山間地域総合整備事業で整備する農道は、ほんとにそれが防災、避難道として活用できるかは、大きく期待できるものではない、それらを踏まえ避難道として活用するならば、どういう方法、どういう制度を活用すればいいのかなどというようなことも含めて考えていければというふうに思っています。

(記)野崎

報告

高浜原発（福井県）視察と

高浜町議会との意見交換会

編集後記

日増しに寒さを感じる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

大間原発の工事再開も二年延期との発表もあり、町の景気も落ち込んでいます。議会でも、安全な原発建設の早期再開に向けて、働きかけていきます。

今後も、強力で進んで参りますので、町民皆様のご協力をお願いします。

これから厳しい大間の冬を迎えますので、皆様には体調に十分ご留意ください。

（記）佐々木

議会広報編集委員

委員長

加藤 正喜

副委員長

佐々木 信彦

委員

竹内 勝雄

千代谷 誠

竹内 弘

宮野 昭一

津地方裁判所が運転停止を命じる仮処分決定をだし、現在は停止したままだ。

大間原発も、今、函館市から建設・運転差し止め訴訟を受けていることから、高浜原発の訴訟について、高浜町長はじめ議員の方々から訴訟の背景や、敗訴までのプロセス、住民説明の方法、電力会社への要望や対応など、大間議会として大変参考になる話がきけた。

工事再開が2年延期になり、完成まで7年、函館市の訴訟の結果は分からないが、今以上に行政と議会がスクラムを組み、取り組んでいかなければ。

（記）加藤

平成28年7月27日（水）福井県高浜原子力発電所の視察と、高浜町議会との意見交換のため役場を訪問した。

参加メンバーは、石戸議長以下全議員と、行政からは金澤町長と企画経営課岩佐課長&松原議会事務局局長の総勢13名。

何故、今、高浜なのか

高浜には原子力発電所が4機建設されている。原子炉型式はPWR（加圧水型軽水炉）、大間原発のABWR（改良型沸騰水型軽水炉）と型式は違うが、大間原発が使用燃料とする再処理燃料（MOX）を、国のプルサー

マル計画により3号機でMOX燃料を燃料の一部として使用し、2011年1月21日営業運転を開始した原発でもある。

その後、2014年12月6日、住民らによる3・4号機の運転差し止めの仮処分申請があり、2015年4月14日福井地方裁判所が3・4号機の再稼働を認めない仮処分を決定したが、同年12月24日関西電力の異議申立てを受けた異議審において、福井地裁が再稼働差し止め仮処分を取消しとした。その決定を受け、2016年1月29日に3号機、31日4号機の両機でプルサーマルで再稼働したが、同年3月9日今度は、大